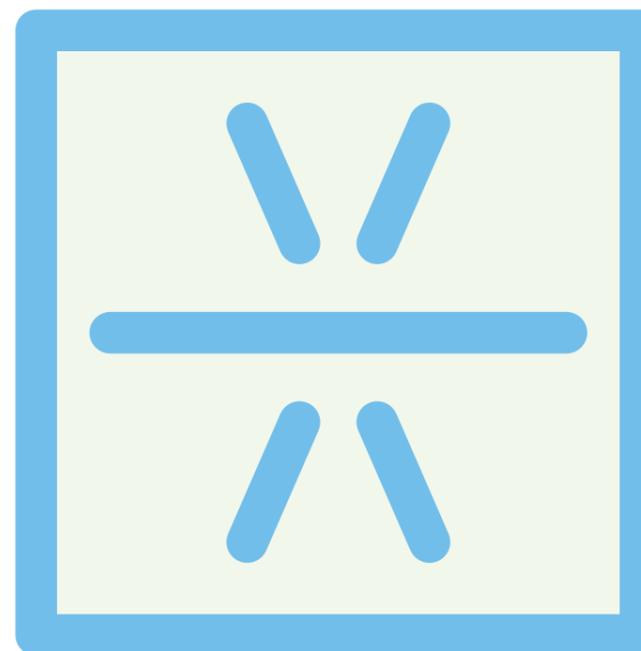


第 2 回

おかざき景観賞

受賞作品集



OKAZAKI
Landscape Award



・・・岡崎市の中で光り輝いた景観を「岡」と「光」の文字をモチーフに表現したデザイン

岡崎市では、地域の特色を活かした良好な景観形成を促すために、昭和62年度から「岡崎市都市景観環境賞」を開始し、平成18年度まで計10回にわたって実施してきました。平成24年に策定した岡崎市景観計画のもと、平成25年度からは「おかざき景観賞」として賞をリニューアルして実施しています。第2回となる今回は、民間の景観まちづくりを先導する景観整備機構と市で「おかざき景観賞実行委員会」を組織し運営にあたっています。

景観に格調と落ち着きをもたらす抑制的なデザイン

第2回おかざき景観賞には、合計28件の応募があった。建造物部門では、一次審査で応募17件から6件に絞り、現地視察を行い、二次審査で2件を入賞とした。「はるさき健診センター」は、なだらかな地形と南側の住宅地との調和を考慮し、半地下の3階建てにするとともに、敷地周囲に植栽帯を設けたもので、評価が高かった。「Dragon Court Village」(竜美丘コートビレッジ)は、木造2階建て9軒を立体的にポラス(多孔)状に配置し、その周囲に車路を廻したもので、車社会での密住の仕方の提案とその景観が評価された。

広告物部門では、応募7件から5件が二次審査に進んだ。その内の2件を入賞とした。コーポレートカラーをあえて使用せず、シルバーと色味を抑えた「岡崎信用金庫本部」の屋上と壁面の社名看板は、岡崎の中心市街地にうるおいをもたらしている菅生川(乙川)に調和するものとして、評価された。二七市(ふないち)の通り(八幡町)にある「229」の文字看板は、店の周囲の白い椅子や植木鉢といった小物と調和した、看板らしくないセンスある看板として、評価された。

景観まちづくり活動部門の応募は4件で、3件が二次審査に進んだ。約15年間継続している「葵桜と彼岸花を育てる活動」と複数世代が参加する活動である「大学生・小学生・市民の協働による藤川宿『米屋』の改修」の2件を入賞とした。

最後に、各部門の入賞から選ばれる大賞について議論されたが、本年度は、該当なしとなった。奨励賞として、駅前ながら抑制的な広告表現の「CAFE DAYS」が選ばれた。

本年度は、周囲の環境に配慮した抑制的な建造物や広告物が入賞となった。こうした作品の積み重ねが、岡崎市の都市景観に格調と落ち着きをもたらすようになるに違いない。



岡崎市景観審議会会長

■ 瀬口 哲夫 | Tetsuo Seguchi
(名古屋市立大学名誉教授)

岡崎市景観審議会委員名簿

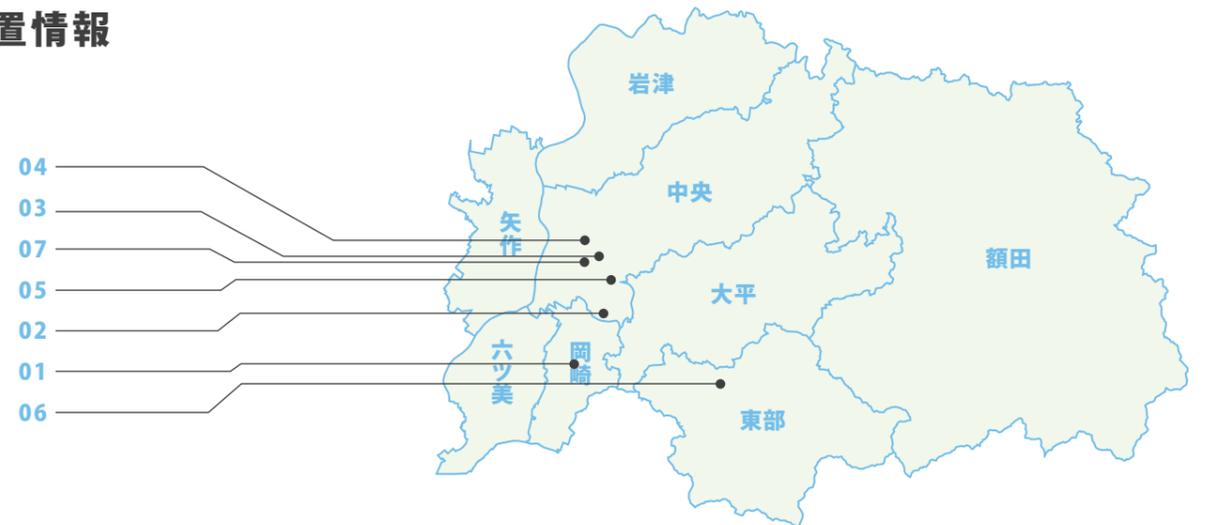
氏名	所属等
瀬口 哲夫	名古屋市立大学名誉教授
堀越 哲美	愛知産業大学学長
水津 功	愛知県立芸術大学教授
長谷川 明子	1級ビオトープ計画管理士
杉野 丞	愛知工業大学教授
丹羽 誠次郎	愛知学泉大学教授
中根 克弘	中根克弘法律事務所(弁護士)
河江 喜久代	岡崎市動植物調査会
佐藤 繁子	公益社団法人愛知建築士会岡崎支部
柴田 芳孝	愛知県広告美術業協同組合
林 みずほ	岡崎商工会議所
天野 裕	特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・リタ
岩月 美穂	岡崎活性化本部(特定非営利活動法人21世紀を創る会・みかわ)
大野 敏夫	一般公募
新海 眞二	一般公募

審査経過

- 応募期間
平成27年11月2日～平成27年12月18日
- 応募件数
総数……………28件
建造物部門……………17件
広告物部門……………7件
景観まちづくり活動部門……4件
- 一次審査
平成28年1月29日
応募書類をもとに、14件を二次審査の対象とした
- 二次審査
平成28年2月26日
現地視察及び追加資料をもとに入賞6件、奨励賞1件を選定した



位置情報



- 01 岡崎市医師会はるさき健診センター
- 02 Dragon Court Village(竜美丘コートビレッジ)
- 03 岡崎信用金庫シンボルマーク
- 04 229
- 05 葵桜と彼岸花を育てる活動
- 06 大学生・小学生・市民の協働による藤川宿『米屋』の改修
- 07 CAFE DAYS



過去の受賞一覧 (過去10回の岡崎市都市景観環境賞+第1回おかざき景観賞の受賞作品)

■ 中央地域

大久保邸(竜美南三丁目)
チェリータウン(竜美中二丁目)
エルファッション(大西一丁目)
備前屋(伝馬通二丁目)
シビコ営業部会(康生通西二丁目)
中岡崎婦人サークル(中岡崎町)
管生川を美しくする会(明大寺町)
ロイヤル梅園ガーデン(梅園町)
重の家(井田新町)
ニューヨークパパ2(稲熊町)
新くらし文化館(広幡町)
葵松庵(康生町)
岡信資料館(伝馬通一丁目)
(資)八丁味噌(八帖町)
(株)永田屋精肉問屋(伝馬通二丁目)
大井野川を美しくする会(大井野町)
オリンピックスポーツクラブエクセル岡崎(井田南町)
TADA(両町)
薔薇館TAKABA(本町通)
キャナリイロウ(竜美北)
石原家住宅(六供町)
六供浄水場配水塔(六供町)
乙川を美しくする会(菅生町)
連尺小学校児童会(城北町)
角金ビル(明大寺本町)
岡崎女子短期大学(中町)
辰巳邸(欠町)
第一生命岡崎アパート(六供町)
岡崎信用金庫第二本部ビル(菅生町)
山田屋庄九郎(能見町)
東岡崎駅前自主的整備地区(明大寺本町)
岡崎東康生町協同組合(康生通東)
伝馬通商店街振興組合(伝馬通一丁目、二丁目)
横山邸(栄町)
セリオ竜美丘(竜美南三丁目)
アートウェディング ノア(中町)
岡崎コンファレンスセンター(明大寺町)
伝馬商店街協同組合(伝馬通五丁目)
伊賀山住宅(伊賀町)
ルーブル919(竜美北一丁目)
岡崎ガス本社ビル(久後崎町)
中部美容専門学校 岡崎校(祐金町)
東岡崎駅南交通広場キャノピー(明大寺町)
太田邸(福岡町)
セリオ稲熊(稲熊町)
岡崎公園 巽閣本丸トイレ(康生町)
明大寺の家(明大寺町)
K邸(川端邸)(材木町)
小森内科クリニック(竜美台一丁目)
正長刃物店(連尺通)
松應寺横丁にぎわいプロジェクト(松本町)

■ 岡崎地域

城南小学校児童会(城南町)
あじさいの里を育てる会(福岡町)
緑友会CGC協会(戸崎新町)
牧邸(戸崎町)
ガトータツミヤ(戸崎新町)
BRAHMS SAAL II(上地一丁目)
岡崎シビックプラザ(羽根町)
KITOビルディング(戸崎町)
学校法人めぐみ幼稚園(羽根町)

■ 大平地域

平地東CGC協会(美合町)
呉服のやまもと(美合新町)
岡崎美術博物館(高隆寺町)
アイシン・エイ・ダブリュ(株)岡崎工場(岡町)
岡崎市民病院(高隆寺町)
ハートクリニック神田(洞町)
おおはらマタニティクリニック(洞町)
岡保育園(岡町)

■ 東部地域

粟生人形(市場町)
藤川宿まちづくり研究会(藤川町)
本宿町まちづくり研究会(本宿町)
アイチ味噌たまり(本宿町)
北山湿地保護活動(池金町)

■ 岩津地域

奥殿学区西部第一長寿クラブ(奥殿町)
富士機械製造(株)岡崎工場(恵田町)
細川学区地域花壇づくりの会(細川町)
奥殿陣屋金鳳亭(奥殿町)
香山彊会(日影町)
梅村邸(八ツ木町)
豊田工機(株)技術開発センター・花園(真福寺町)
岡崎市立大樹寺小学校プール更衣室棟(鴨田町)
あさひこ幼稚園(桑原町)

■ 矢作地域

鹿乗川を美しくする会(宇頭町)
グローリアス岡崎(矢作町)
岡崎城西高等学校(中園町)
フタバ産業(株)本社社屋(橋目町)

■ 六ツ美地域

六ツ美中部学区明生クラブ(下青野町)
六ツ美北部学区地域花壇づくりの会(井内町)
アウディ岡崎(上和田町)

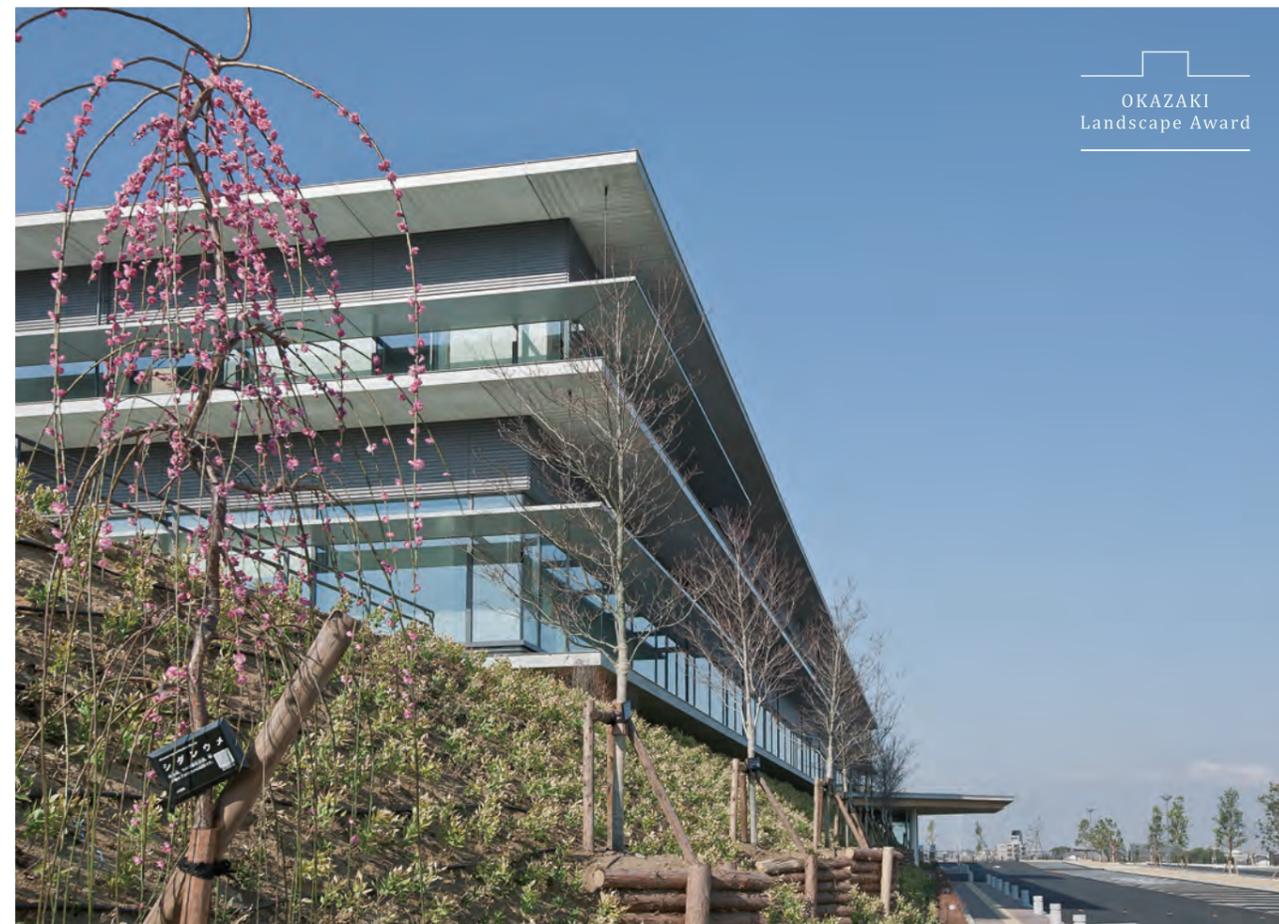
■ 額田地域

鳥川ホテルの里(鳥川町)



第2回おかざき景観賞 受賞①「建造物部門」

■ 岡崎市医師会 はるさき健診センター



01



建物名 : 岡崎市医師会 はるさき健診センター

所有者 : 一般社団法人岡崎市医師会

設計者 : 株式会社日建設計

施工者 : 清水建設株式会社

町名 : 針崎町



はるさき健診センターは、ニュータウンとして新しく造成開発された「春咲」の地に立地し、周囲には豊かな緑と中学校や住宅が建ち並ぶ環境の中にある。

この建物は、一日何百人もの受診者が来館する大規模な建築物であるにもかかわらず、周りの敷地傾斜を利用し、南側は建物を半地下にすることにより、低く圧迫感のない半地下3階建ての建築構成としている。また建物の外観は前面ガラスによる解放感と、強調された水平スラブが直線的なシャープさにつながり、ボリュームとしての存在感を柔らかくしている。景観としての色彩計画はガラスとスラブによる無機的な色彩を用いることで建築物が連なって見えるまちなみの統一感をもたらし、景観の中で地となって周囲に融合している。

この地域における建築構成と色彩計画の素晴らしさが、新しい地域景観のモデルとなることで評価された。



Dragon Court Village(竜美丘コートビレジ)

第2回おかざき景観賞
受賞②「建造物部門」



OKAZAKI
Landscape Award

02



※スミビラキ…マルシェとはフランス語で「市場」を意味する。入居者らが中心となって「スミビラキ」という小さなマルシェを開催している。

郊外住宅地にある9戸の賃貸長屋である。それぞれの住戸は、1階から2階までを居住空間とした立体的なメゾネットタイプで構成されている。1階を離れとし、住みながら、アトリエやお店を営むことができる空間となることで、住人同士の交流や、1階の軒下空間が街に開放され周辺の人々との関係性をつくり出す。月一のマルシェ「スミビラキ※」を開いていることもその一つである。大きな壁面を和らげるために、経年変化する自然素材として、幅の細かいラワンの羽目板を選択したり、木の柱や梁は構造的、耐久性的にも優れている単板積層材を使用し、軒下空間や街に対して、暖かさや変化を与えている。

集合住宅のあり方として、職住が関係し合うことで生まれるアクティビティは、まちと新しい関係をつくる提案となり、まちなみ全体としての魅力の向上となっている。

● 岩月 美穂 | Miho Iwatsuki



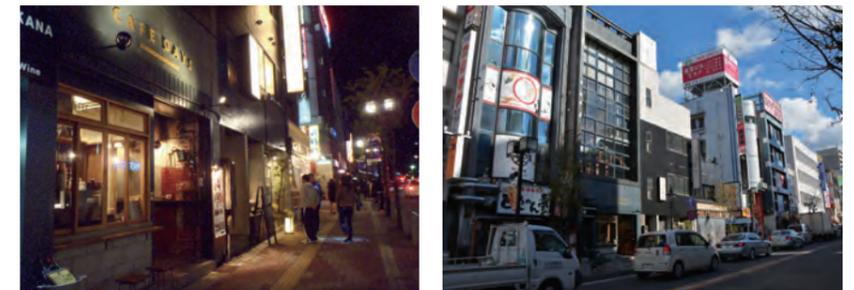
第2回おかざき景観賞
奨励賞

CAFE DAYS



OKAZAKI
Landscape Award

07



建物名 : CAFE DAYS

所有者 : 株式会社CANVAS

設計者 : エイトデザイン株式会社

施工者 : エイトデザイン株式会社

町名 : 明大寺本町

東岡崎駅北口の明大寺商店街を歩くと、そのまちなみは建物から張り出した看板、立て看板、壁、窓、ありとあらゆる平面を埋め尽くすように、お店の名前やメニュー、値段等の文字やイメージ写真が躍っている。そうした情報の喧騒の中にあって、CAFE DAYSの店構は一見寡黙である。しかし、その抑制的な表現からは、文字情報以上に、「どんなお店なのか」、「どんな価値を提供しようとしているのか」、確かな意思が感じられる。テイクアウト用に道路に面して設けられたカウンターは、その前でお客さんが待つ光景自体が広告となる効果を演出している。周囲の広告物が当然のようにその役目を果たすため、少しでも目立とうと華美さ、派手さ、広さを競う熾烈な争いを繰り広げているのに対し、CAFE DAYSは屋外広告物のあり方に一石を投じつつ、品格ある景観形成に存在感を示した点が評価された。

● 天野 裕 | Yutaka Amano



■ 大学生・小学生・市民の協働による藤川宿『米屋』の改修

第2回おかざき景観賞
受賞⑥「景観まちづくり活動部門」



06



活動名：大学生・小学生・市民の協働による
藤川宿『米屋』の改修

活動団体：学校法人愛知産業大学
藤川まちづくり協議会
有限会社工作舎中村建築

町名：藤川町

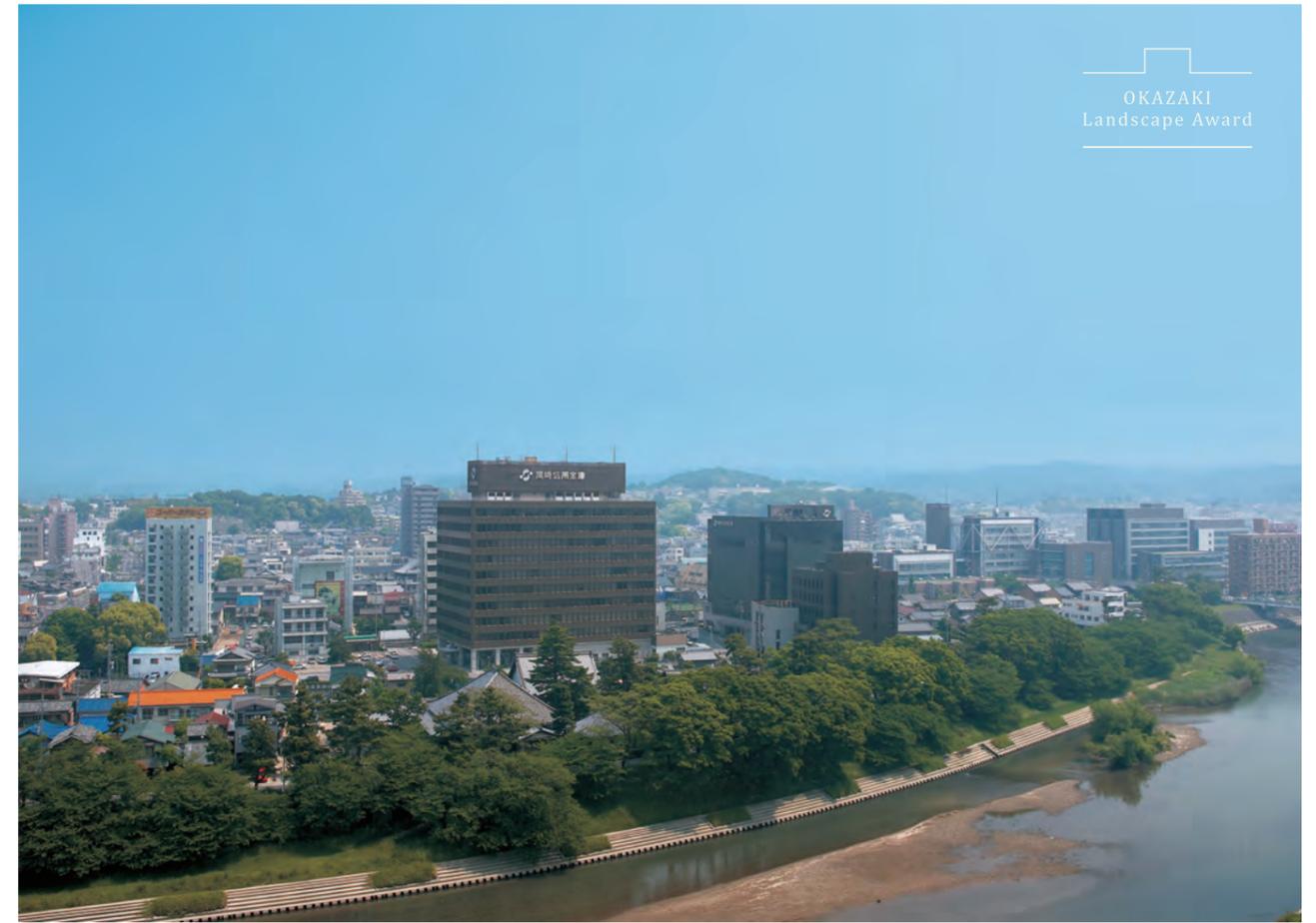
旧東海道藤川宿の旧野村家住宅（米屋）は、江戸時代末期の商家であった。街道の賑わいを支えてきた数少ない町家の一つであり、旧東海道を行き交う人々の心の原風景の一つとして記憶されてきた。しかし、戦後の改修と長年の風雨による老朽化が目立ち始めていたため、藤川まちづくり協議会と大学生、小学生、市民の有志が「藤川宿米屋改修プロジェクト」を企画し、修復工事を開始した。各時代の後補材が撤去されると、次第に姿を現す古材が往時の賑わいを想起させ、各部材の痕跡が商家の面影を映し出し、格子窓、土壁、三和土土間等が再現されると、米屋は往時の伝統様式の外観を備えた地域のまちづくり活動拠点の町家として再生した。このように、旧東海道の景観が世代を超えた人々の手により再生され、景観まちづくりの拠点が生み出されたことは意義深く、旧東海道の賑わいが復活することが期待される。本件の活動は、地域が持つ自然・歴史などの特性を活かし、多くの人の参加によって行われ、良好な景観形成に寄与するものであり、高く評価される。

● 杉野 丞 | Noboru Sugino



■ 岡崎信用金庫シンボルマーク

第2回おかざき景観賞
受賞③「広告物部門」



03



企業カラーによる通常のシンボルマーク

建物名：岡崎信用金庫シンボルマーク

所有者：岡崎信用金庫

設計者：凸版印刷株式会社

施工者：小原建設株式会社

町名：菅生町

屋外広告物は、景観を構成する大きな要素の一つである。より良い景観まちづくりを進めるためには、一様に規制をかけるのではなく、様々なまちなみのそれぞれの場面に相応しい広告物を求める事が大切である。それにより繁華街、住宅街、歴史的な地区など、それぞれに見合った景観創出が実現される。

市中央を流れる乙川（菅生川）は街のシンボルであり、水と木々の緑から生み出される風格ある景観は、古くから市民に憩いと安らぎを与えてくれている。そのようなロケーションにある「岡崎信用金庫シンボルマーク」は、あえて企業カラーである赤色と青色の使用を控え、シルバーを使用することによって四季それぞれの景観を損なわないよう配慮された広告物となっている。

市内における広告物の設置するに関わる広告主・デザイナー・施工者にとって、一つの指針となる作品である。

● 柴田 芳孝 | Yoshitaka Shibata





04



建物名 : 229

所有者 : 神野憲司

設計者 : 株式会社ストック建築設計事務所

施工者 : サンモク工業株式会社

町名 : 八幡町

八幡町の二七市通りに面する、コーヒーとクラフトビールの店「229」。腰高の小さなリボン窓が切られただけの極めてシンプルな外観は、二七市の立たない日には静かなこの境界の環境と見事に調和している。そして、通りからすこし奥に引き込んだ場所に位置する入口へと向かうアプローチの壁面に、ただ店名のみが掲げられている。

鍛鉄(たんてつ)製のこの小さな看板は、壁面から少し浮かせて設置されることによって確たる存在感を示しており、所在地の番地から名付けられたであろうユニークな店名と相俟って、通りを行き交う人の注意を惹くに充分だ。それ自体のデザインや設置の方法が優れているばかりでなく、とかく派手になりがちな屋外広告物の掲出のあり方に対して、一考を促してくれる好事例としても評価できるのではないだろうか。

● 丹羽 誠次郎 | Seijiro Niwa



05



活動名 : 葵桜と彼岸花を育てる活動

活動団体 : 葵桜と彼岸花を育てる会

町名 : 東明大寺町・大西町

名鉄東岡崎駅から徒歩20分。竜美丘会館北側を流れる乙川(菅生川)の河川敷には、約85本の葵桜と20万球の彼岸花の球根が植えられ、早春にはピンクの葵桜(河津桜)、秋には深紅の彼岸花で彩られる。2001年に市民ボランティアから始まったこの活動により、河川敷は新しい岡崎の名所となり市民の憩いの場となった。この景観は、葵桜と彼岸花が咲く風景としての素晴らしさだけでなく、15年余の長きにわたり、それぞれがこのまちへの想いを持って活動に関わり、協力の輪が広がりながら継続している点が評価できる。

この景観を目にした一人ひとりの市民が、まちのために何ができるかを考え、まちとの関わりを意識しながら暮らし、またこの景観を貴重な財産として次世代へ継承し続けたいという気持ちが育まれることにより、景観まちづくりの意識醸成につながることを期待したい。

● 林 みずほ | Mizuho Hayashi

